

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	B	配分額	700,000 円
研究課題	社会的メタファーの形成と論理的思考力発達の研究		

研究代表者

氏名 浅沼 茂	所属 教育学	職名 教授
---------	--------	-------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

本研究は、社会的知識を単に教科書や紙媒体を通してのみ得られるような社会関係や社会組織の中での人間関係のあり方を主体的に体験するカリキュラム教材の実践を具体的に学校現場の中で研究調査するものである。暗記的な知識ではなく、このような主体的な参加型の体験こそが、社会に関する具体的な論理的メタファーを作り出し、実感として社会のあり方を理解するようになる。このような体験的な学習に関しては、自然観察や物作りなど物的な対象が多く注目されてきたが、人と人とのつながりや関係性についての社会的知識については、あまり注目されては来なかった。そこで、本研究は、シミュレーションやロールプレイなどを中心に、主体的な体験を通して人間社会での協調性と利害のぶつかり合いを民主主義的なプロセスによって学ぶカリキュラムの開発を目指している教育実践を研究する。小学校段階での体験を通しての人間関係のメタファーを形成することは、市民性の育成の基礎となるものである。その体験活動は、生産者、消費者、流通というような経済活動、そして、それぞれの役割を主体的に体験することによって得られる主体的な社会的役割を実感として理解するが求められる。このようなカリキュラム教材を実際に開発している学校現場を訪問し、研究調査した。

国際理解教育の現場では、すでに貿易ゲームや100人からなる世界のようにシミュレーションやロールプレイを中心として学習教材が作られてきた。このような参加型の教材をさらに、人々の災害体験やボランティアなどの分野に広げ、学校での実践への活用を目指した。

体験的な学習の中で社会体験的なロールプレイやシミュレーションを実践している学校を中心に訪問し、データを収集した。具体的には、総合学習の時間での実践に熱心に取り組んできた個性化教育連盟の会員校を中心に訪問し、その実践についての文献と聞き取り調査をした。教師への聞き取りは、その実践記録と生徒の発達の成果などできるだけ具体的な内容を引き出すようにした。教師の具体的な実践には、それぞれの創意工夫がある。それぞれの違いを詳細に記録し、分類整理する。ロールプレイは、ディベート形式のように単純に賛否を問う形と社会的な役割を演じさせる社会関係型のような形など多様なものがある。それぞれの関係性と論理的な思考力の構造と形を比べ、それらの特質を分析した。

研究成果発表方法

モデル授業とシミュレーション 個性化教育学会研究発表予定 浅沼茂